

1 調査名称：粕屋町都市計画道路交通量推計・調査

2 調査主体：粕屋町

3 調査圏域：粕屋町管内

4 調査期間：令和6年7月5日～令和7年3月14日

5 調査概要：本業務は、粕屋町管内における都市計画道路の今後のありかたを検討するための基礎資料を得ることを目的として、都市計画道路の完成時の将来交通量推計、及び現状の交通実態調査を行った。

I 調査概要

- 1 調査名称：粕屋町都市計画道路交通量推計・調査
- 2 報告書目次
 1. 業務概要
 - 1-1. 業務目的
 - 1-2. 業務概要
 - 1-3. 業務対象位置
 - 1-4. 業務全体フロー
 2. 交通実態調査
 - 2-1. 現地踏査等
 - 2-2. 実態調査の実施
 - 2-3. データ入力・整理
 3. 配分データ作成
 - 3-1. ネットワークデータの条件設定
 - 3-2. 推計対象地域の配分OD表作成
 - 3-3. 配分条件の整理
 4. 交通量配分
 - 4-1. 現況交通量配分
 - 4-2. 将来交通量配分
 - 4-3. 周辺道路網への影響確認
 - 4-4. 交差点方向別交通量推計
 5. 交差点解析
 - 5-1. 交差点交通処理検討の概要
 - 5-2. 交差点計画諸元
 - 5-3. 交差点解析の実施
 6. 概略的な事業費の検討業務概要
 - 6-1. 事業費算出路線の設定務目的
 - 6-2. 概算事業費算出
 7. 公表用資料作成
 - 7-1. 概要
 - 7-2. 提出様式の整理
 - 7-3. 作成提出様式

3 調査体制

発注者：粕屋町 都市計画課

受注者：株式会社福山コンサルタント

4 委員会名簿等：なし

Ⅱ 調査成果

1 調査目的

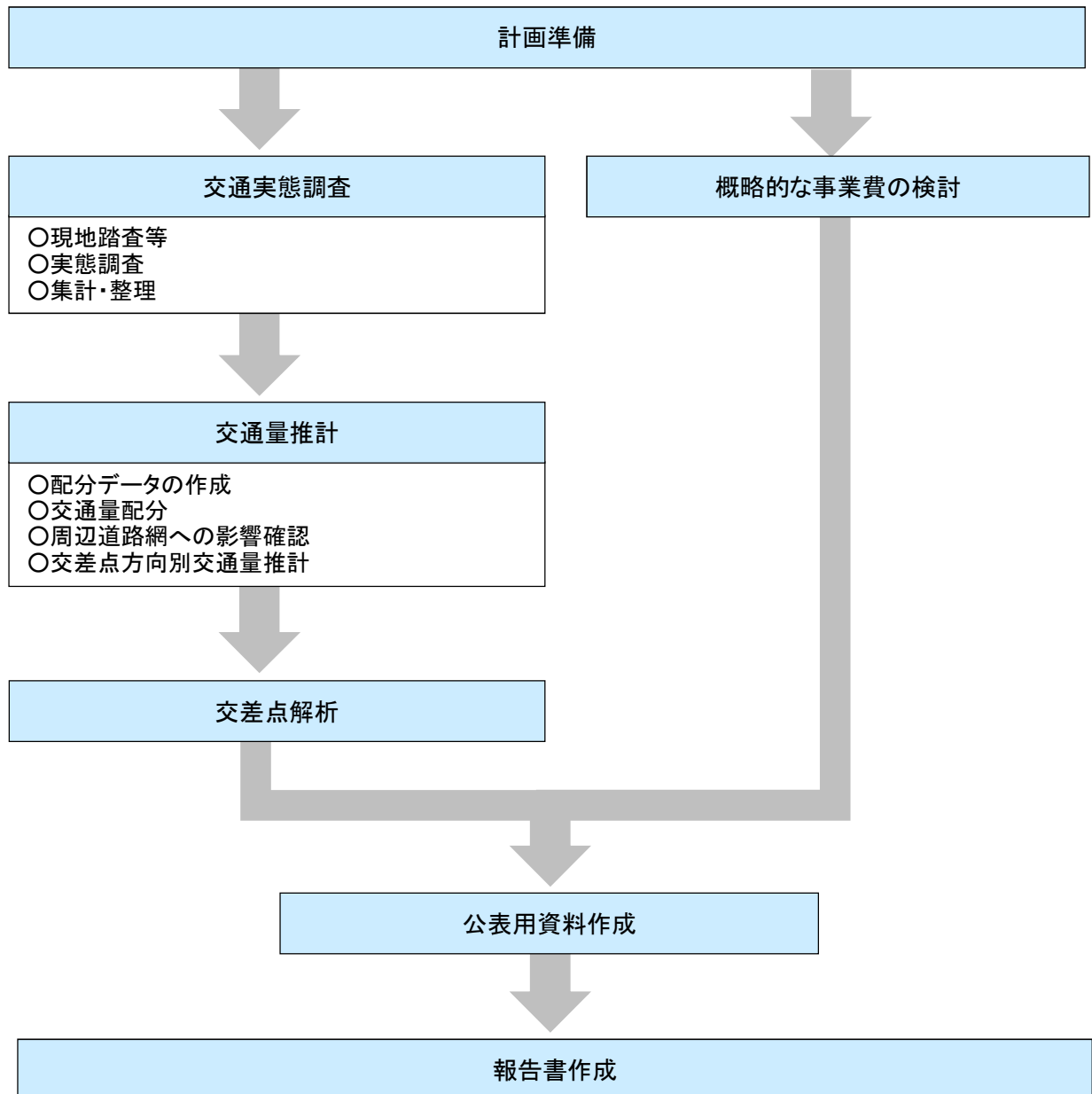
粕屋町は、福岡県北西部に位置し、福岡市に隣接しており、福岡都市圏の交通の要衝ともなっている。このようなことからこれまでも物流施設の立地が進み、今後も施設の開発が見込まれている。

町内２地区では新たなまちづくりに向けて、本年７月と１０月に土地区画整理準備組合（住居・商業系、物流系）が設立され、令和８年度に市街化区域編入、組合設立を目指している。さらに九州大学原町農場跡地を活用し、新たな町の拠点づくりのために取り組んでおり、このように刻々とまちづくりが進むことによって新たな交通量が発生することから早期に町内交通ネットワークの分析をする必要がある。

そこで、粕屋町管内における都市計画道路完成時の将来交通量推計及び現状の交通実態調査を行い、今後の都市計画道路のありかたを検討するための基礎資料を得る事を目的とするものである。

2 調査フロー

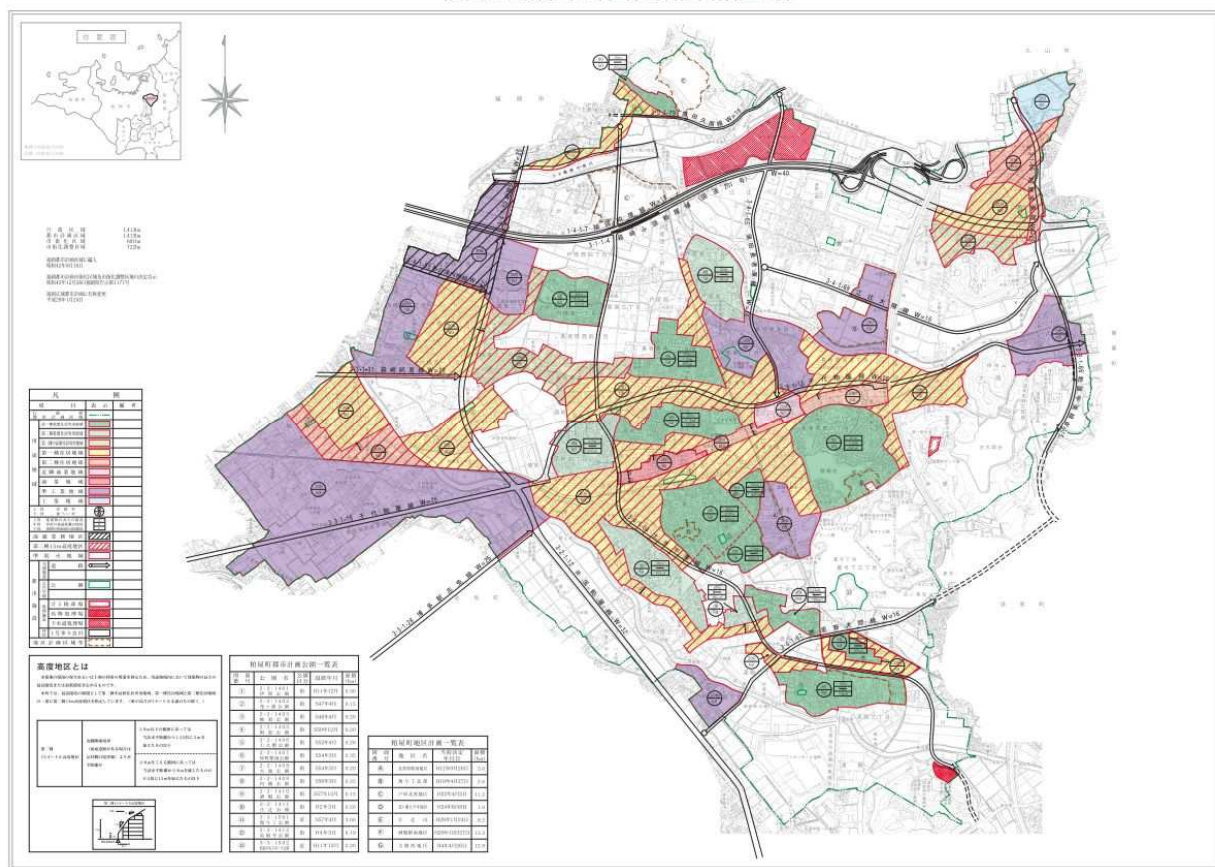
本業務は以下の業務フローに基づいて実施する。



業務フロー

3 調査圏域図

福岡広域都市計画総括図(粕屋町)



■ 対象位置図

4 調査成果

1) 交通実態調査

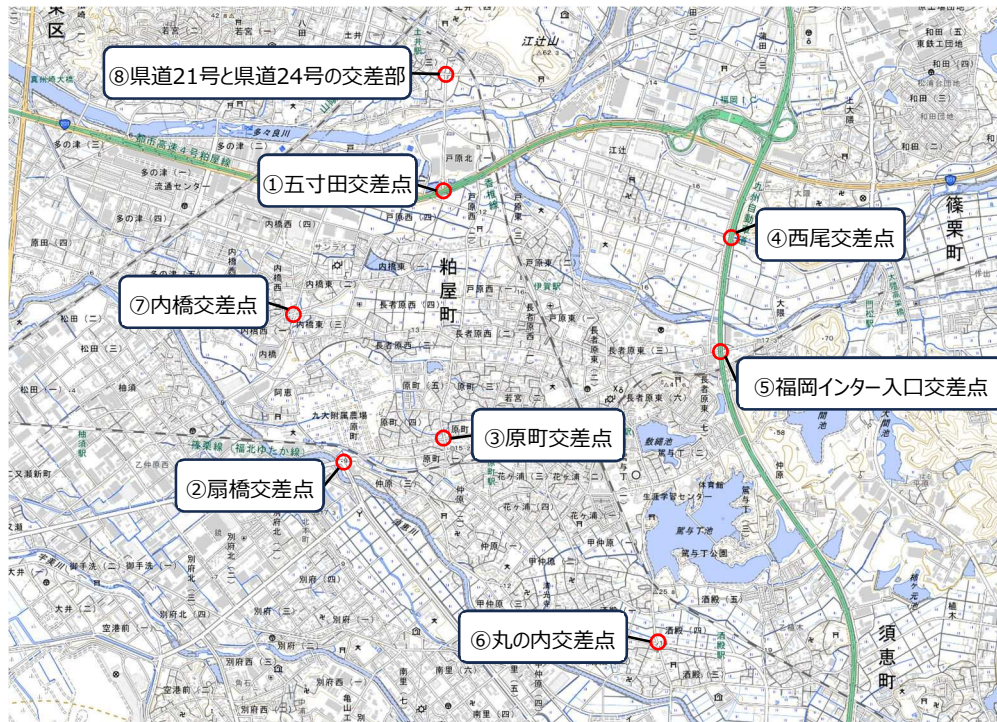
- ・ 粕屋町内における8交差点において現状把握のための交通量調査を実施

○調査内容：交差点方向別交通量調査

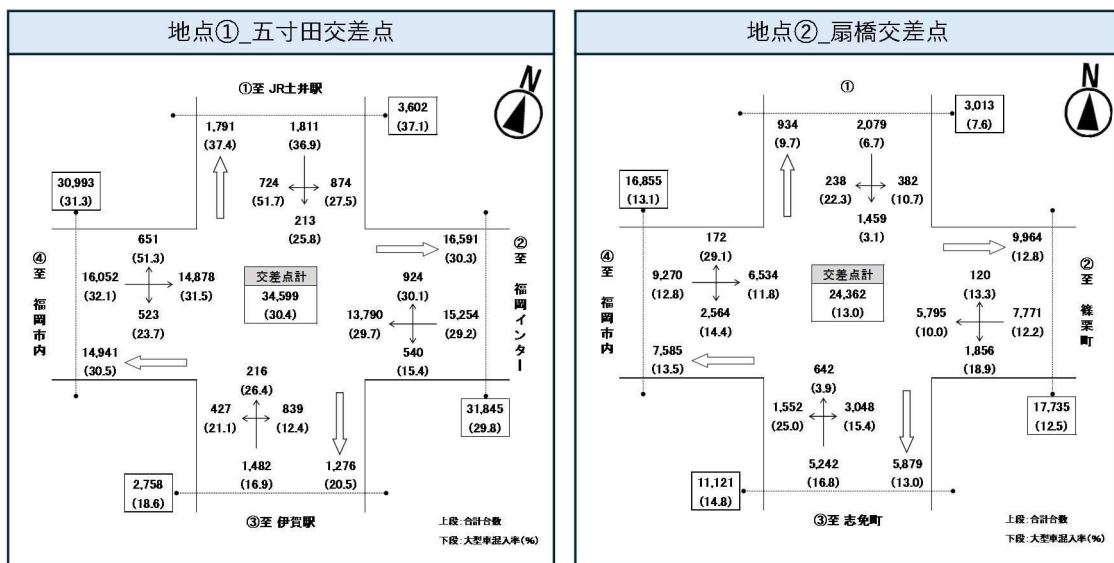
歩行者交通量調査（横断歩道設置箇所を対象）

信号現示調査

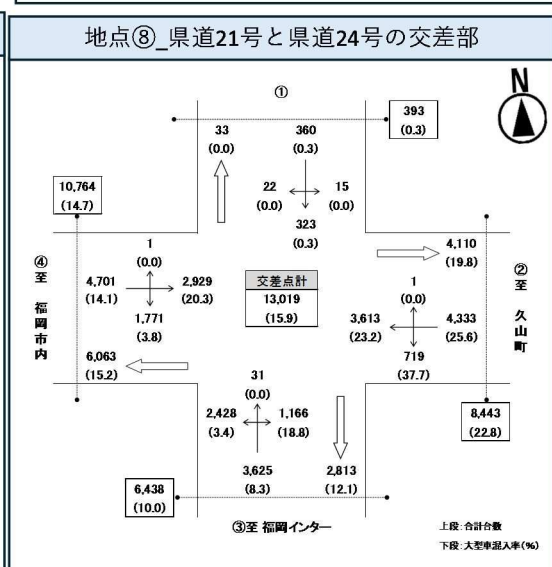
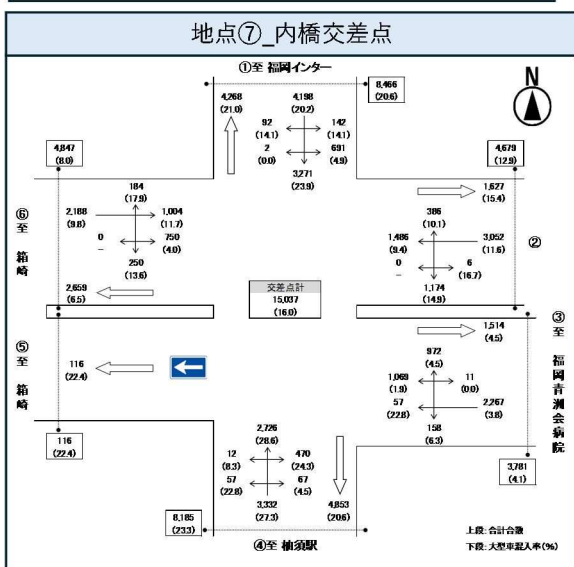
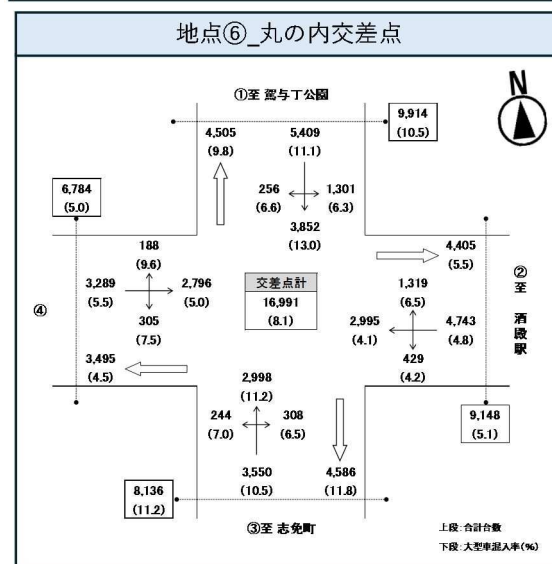
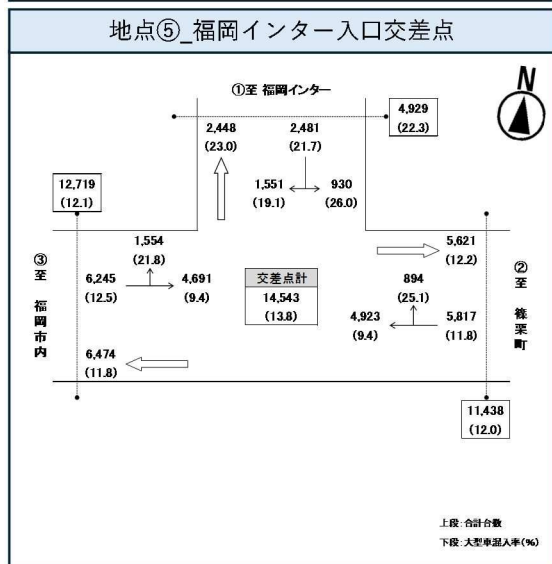
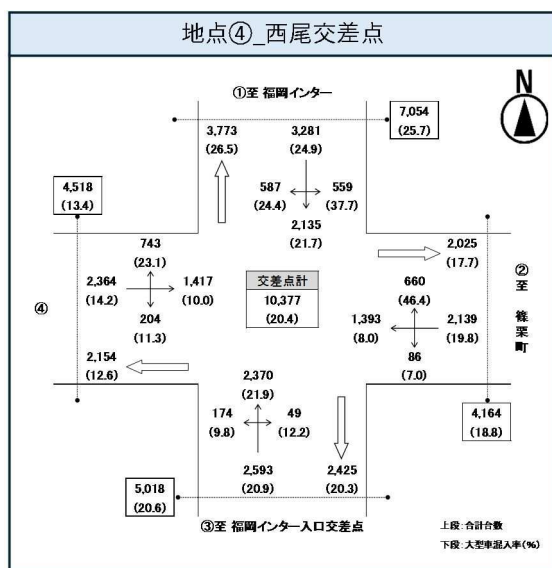
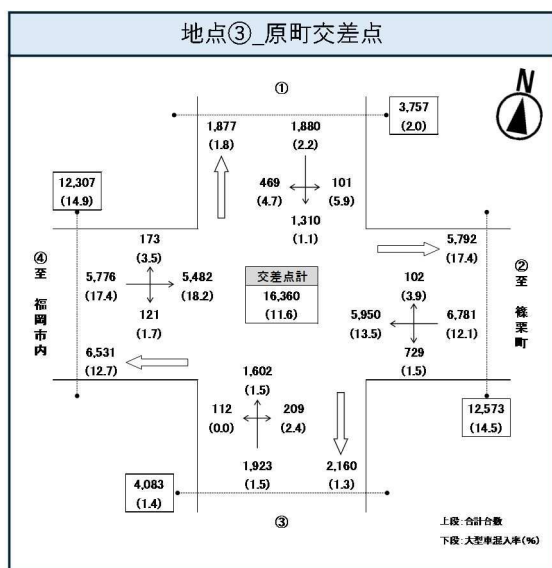
○調査実施日：R6.9.4（7～19時 12時間）



■ 対象交差点位置図



■ 各交差点別交通量(台/12時間)

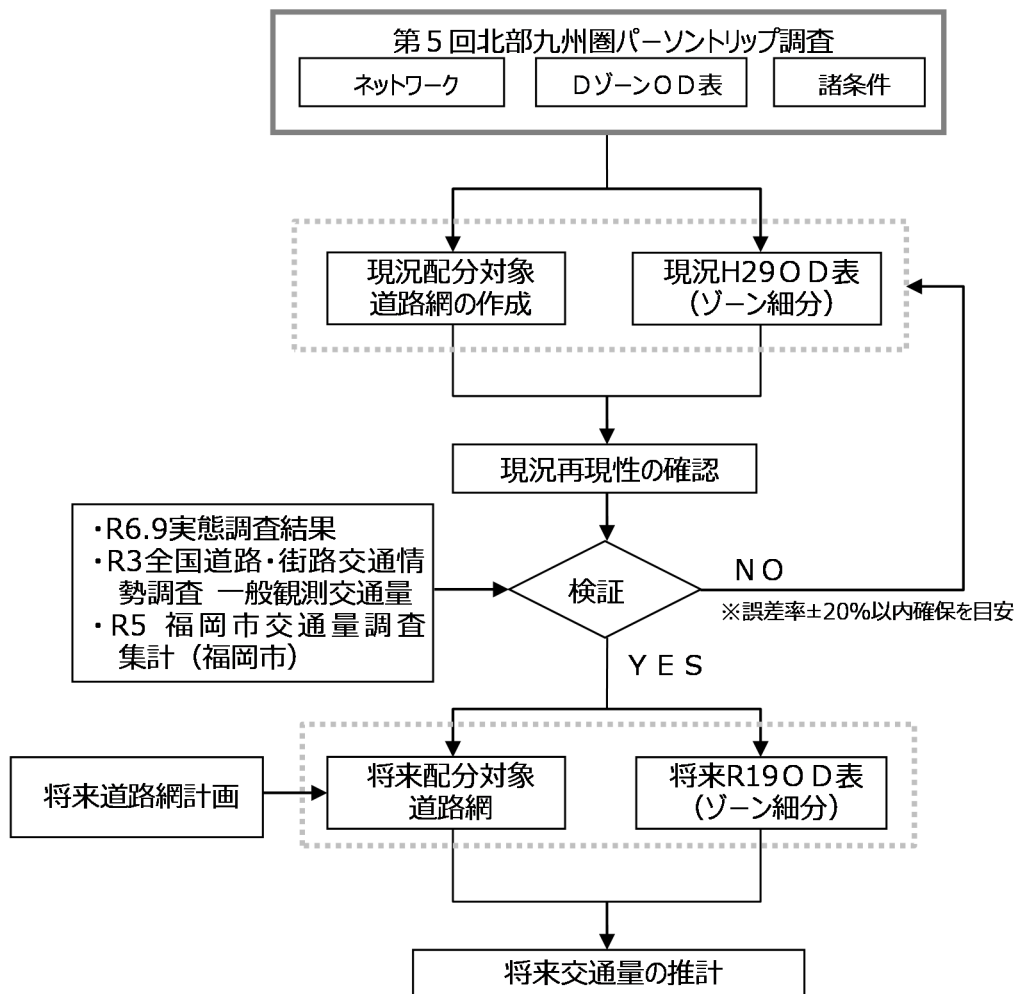


■ 各交差点別交通量(台/12時間)

2) 交通量推計

①交通量推計フロー

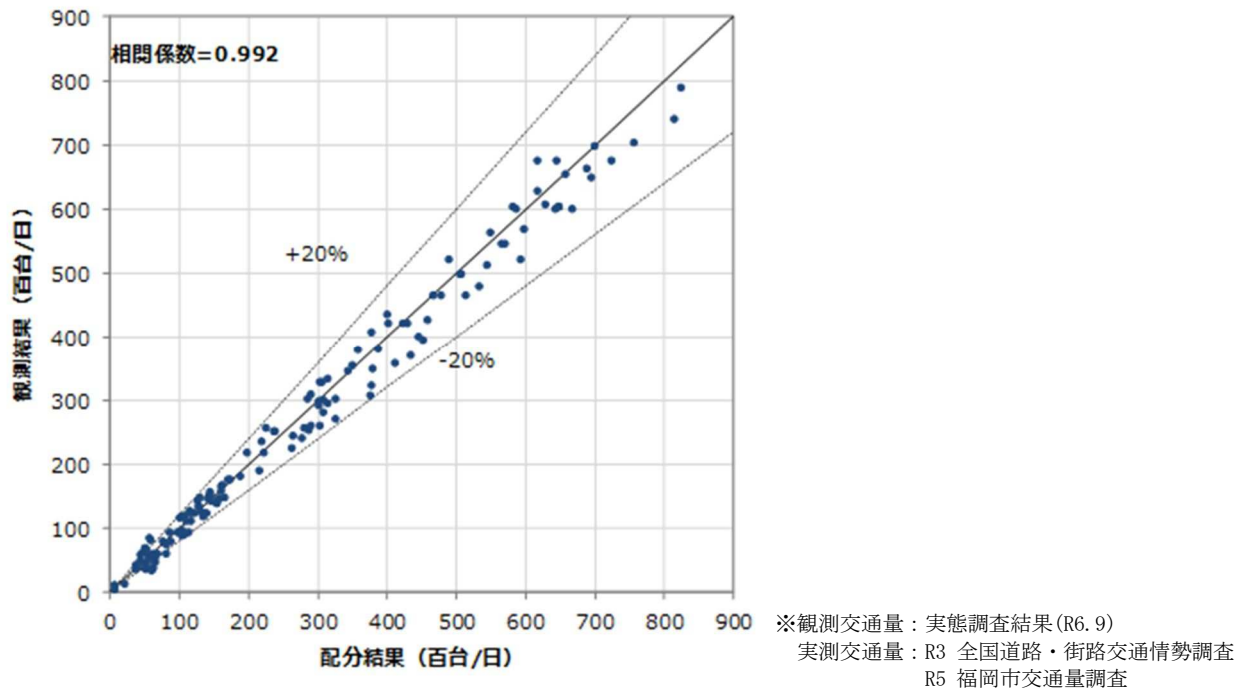
- ・ 将来OD表と将来ネットワークより交通配分を行い、将来交通量を推計。
- ・ 推計データは、第5回北部九州圏パーソントリップ調査（以下5PTと称す）におけるR19将来自動車OD表、及び将来道路網を用いた。
- ・ なお将来交通量推計に当たっては、H29現況OD表と現況道路網による現況再現を行い、道路網データ等の整合性を確認した。



■ 交通量推計フロー

②現況再現性の検証

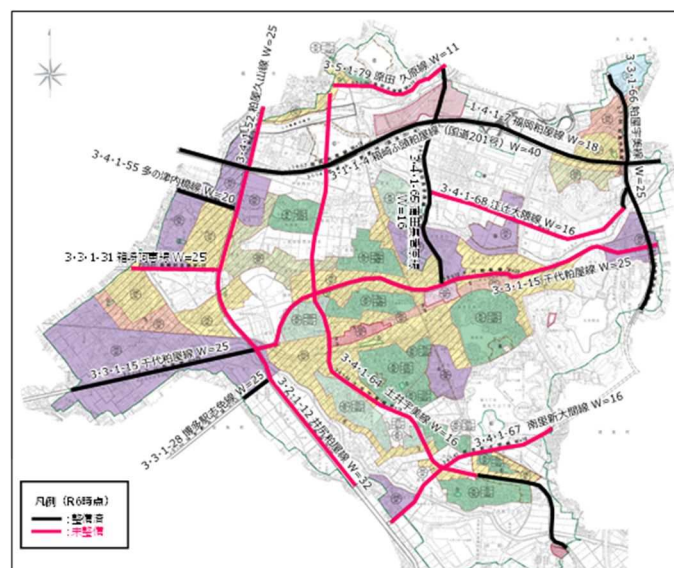
- ・ 5 P T現況OD表・H29を用いた現況交通量推計結果と実測結果（R6.9実態調査結果及び、R3全国道路・街路交通情勢調査結果等）の検証結果は、観測地点142地点で判定基準を満足し、推計と観測結果との相関係数も高い再現性が確認できた。



■ 現況再現推計結果と観測・実測交通量との再現性検証

③将来交通量推計

- ・ 将来交通量推計、及び現況交通量推計は開発計画を考慮した以下のケースで実施した。
- ・ なお、現況検討ケース（C9・C10）や将来未整備路線検討ケース（C3～C8）は、それぞれ、現況ODや将来ODに開発計画を考慮している。

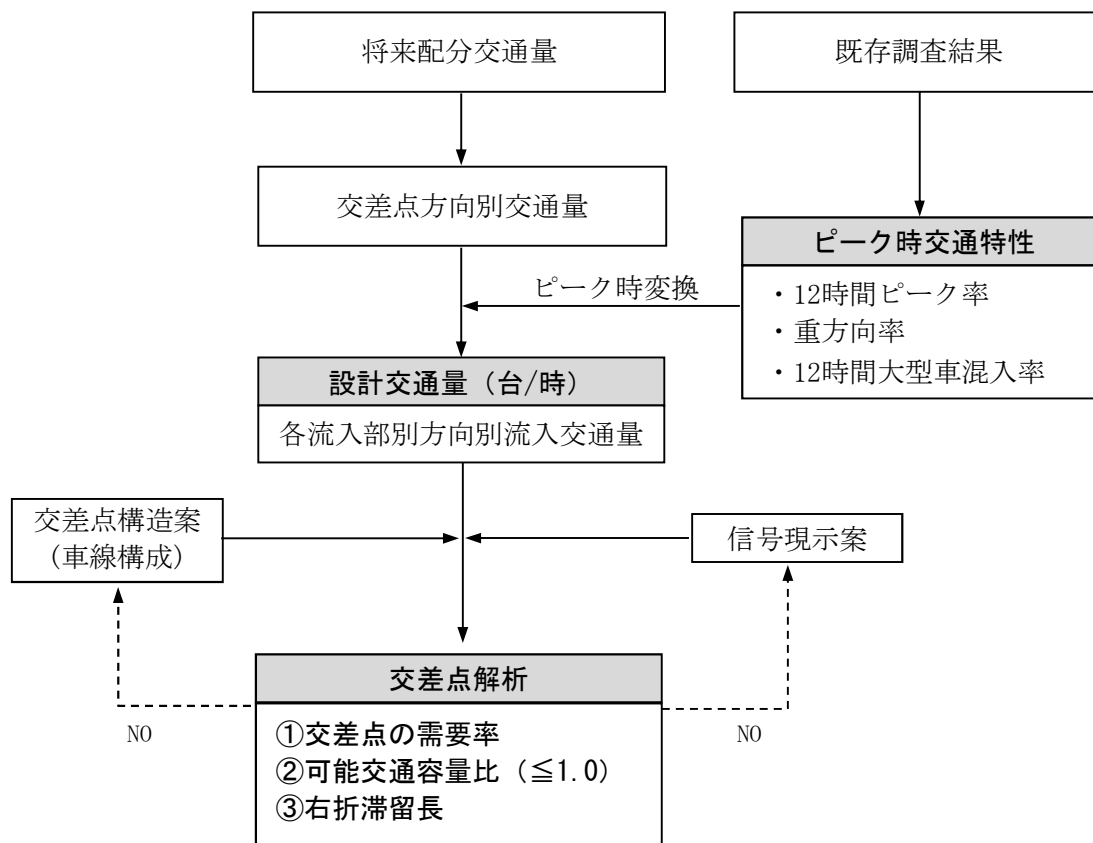


■ 将来推計(未整備路線)

3) 交差点解析

対象交差点における交通処理可能性の検討を行うため、交差点解析を実施した。

現況ケースにおいては、既存調査結果を用い、将来ケースについては、将来交通量推計結果を基に、ピーク時における1時間あたりの交通量（以下、設計交通量）を用いて検討を行った。



■ 交差点解析の流れ

■ 評価項目

①交差点の需要率	・ 交差点全体での処理能力を示す指標 ・ 与えられた交差点の流入部の車線構成、信号現示によって設計交通量を処理する場合、1サイクルあたりに必要な青時間の割合を示すもの
②各流入部の需要率 (混雑度)	・ 各車線の処理能力を示す指標で、1.0以下の場合処理可能とされている ・ 各車線に流入する車両数をその流入部の容量で除した値
③右折滞留長	・ 交差点の右折付加車線の滞留に必要な長さ ・ 信号1サイクルあたりに流入する右折車両数に相当する待ち行列長

4) 概略的な事業費の検討

未整備区間（事業中区間を含む）を整備する場合の概算事業費を算出した。